

## 特集 愛飲者インタビュー

甲状腺機能障害や大腸がんを経て  
たどりついたのは

# ストレスをためない 生き方とSOD

神奈川県にお住まいの棚橋和恵さん(70歳)

日本SOD研究会報

発行元 日本SOD研究会 宮城  
住所 〒158-0094  
東京都世田谷区  
玉川 1-15-2 B棟 2802  
TEL. 03-5787-3498  
協力 株式会社丹羽メディカル研究所  
<http://www.niwa-medical.com>

今回は東京駅から約1時間で行ける古都、鎌倉にお住まいの棚橋家におじゃましてきました。鎌倉は、その歴史的な遺産と美しい自然が織りなす情景が魅力的な場所。古都としての趣を残しつつ、四季折々の風景が楽しめます。春には鶴岡八幡宮や円覚寺の桜、梅雨時には紫陽花寺として有名な明月院の紫陽花。夏には由比ヶ浜の海岸線がサーファーや家族連れで賑わい、秋には瑞泉寺や報国寺の紅葉が山々を彩る。また、冬の鎌倉は、凜とした空気が漂い、雪が降りれば寺社や庭園が幻想的な白銀の世界に変わります。晴れた日には、遠く富士山の姿がくっきりと見え、その雄大さに目を奪われるといえます。

そんな情緒豊かな街で、7歳年上のご主人と7歳になるミニチュアシュナウザーの姫ちゃんと暮らしている和恵さん。ご主

人は77歳になる今も現役のお医者さん。若い頃は東京の病院に勤め、循環器が専門でサンフランシスコの病院にも留学されていたとか。70代になってからは地域医療に従事していらっしやいます。和恵さんとは親戚の紹介で知り合ったそうです。というのも和恵さんのお母様のご兄弟3人全員お医者様という関係で、その叔父様の紹介だったとか。

一見、華奢で上品な趣の和恵さんですが、日常はとてもアクティブ。週一でテニス、アクアビクス(プールで行うエクササイズ)、ピラティス、合唱の練習、陶芸と、とにかく忙しい。合唱などは3つのカテゴリーを掛け持ちして、年に数回、プロを呼んで演奏会まで開催しているのです。さぞや幼少の頃から元気印だったのではないかと伺うと「もともとは虚弱な子供だったん

ですよ。朝礼の時とか、長い時間立っていると貧血で倒れたり

する子だったんです。中学からカトリックの一貫校に通っていて、その合唱の途中でもよくクラツときていたの。季節の変わり目や気圧の変化の折りには頭痛もあり、大病はなかったけれど弱かったと思います。スポーツもどちらかというと苦手で、今の方がよほど元気かもしれな

い」  
意外な答えでした。

「男の子を二人育てたというのも大きかったかも知れませんか。2歳違いでしたから小さい頃はもうてんやわんや。自分のことなどかまっていられないほど忙しい日々。今は重い物はインターネットで何でも買えて家に届けてくれるけど、昔はなんでも自分で持ち帰らなきゃいけない。10キ口の米を抱えて帰ることも日常茶飯事。そりゃ母は強くな

りますよ(笑)」

## 甲状腺の治療薬では

### 湿疹に悩まされ

### 大腸がんでは抗がん剤

強くなったと思っていたし、それすらかまっていられなかった育児の日々。最初の異変は、そんな上の息子さんが小学校に上がった頃でした。

「寝られないくらい頭痛がひどくなり、体重が激減したんです。44・5キ口はあったのに38・9キ口に落ち、食べても食べても痩せていくんです。これは尋常ではないと思っていたら、知人が、目が大きくなって出ている、これって甲状腺異常かもしれない、と教えてくれたんです。そういえば、1年くらい前に主人の勤めていた病院で眼科の検査をしたとき、奥さんの目がちょっと大きいですね、と言われたん

です。そうしたら主人、家内は昔から目が大きいんです、と言ってまったく気にとめていなかったのを思い出し、家にある主人の医学書を調べてみたら、自分の症状が甲状腺異常のそれと全く同じだったんです。それづくに病院に行ったら、やはり甲状腺機能亢進症(※1参照)、それもかなり重症と診断されたんです」

重症を物語るように、治療は難航。最初に処方された薬が強すぎて合わず、全身に湿疹が出たり、気分が悪くなったりの繰り返し。何度も薬を変えながらの治療は3年もかかったといいます。

「あとになって夫が、そういえばあの頃はあなたの感情の起伏がひどかった、と言うんです。夫がお医者さんだといいわね、とみなさんおっしゃるのですが、意外にも灯台もと暗しで、身内

のことには全く無頓着なんですよ。患者さんの話はものすごく良く聞いて、いい医者だと慕われているようですが、家族の話は右から左なんです(笑)」

そんな灯台もと暗しといえることが2006年にも起こったのです。お子さんたちが成人し、親の手を離れた頃、和恵さんが52歳の時でした。

「1年くらい前から貧血に見舞われる回数が増え、頻繁にお腹がキュルキュルと鳴るし、おかしいなと思っていたんです。でも、更年期障害の真っ只中でしたから、こんなこともあるくらいに思っていたんです。そんなある日、夫といっしょに歩いていて、自分だけどんどん遅れてしまっただ。私、いつもは歩くのが速い、せっかちだといわれていたのに、その日はまったく夫に追いつけなかった。それと口が妙に乾いて、歯科医の弟に診てもらった



ら、口の中はどこも異常ないから、胃腸の検査をしたほうがいいんじゃないかと言われ、久しぶりにちゃんとした検査を受けたんです。ほんとうに何度も言うけど、医者の家って、いろんな人から相談を受けてばかりで、自分たちのことは二の次なんですよ」

検査の結果は大腸がん。初期の大腸がんやポリープなら、今は内視鏡検査のついでに切り取ることもできるそうですが、かなり進行していて赤ちゃんの拳くらいの腫瘍が見つかったので。す。

「医者にはよくここまで普通に生活してきましたねと驚かれるくらい。ステージⅢのaでリンパにも転移していたんです。5年生存率は50-50%と言われ、死を覚悟しなければならぬんだと、かなりこたえましたね」

体重が落ちていたので、まず

は体力をつけることから始めましょう、と言われても食欲など出るはずもなく、やむなく増血剤を飲んだりして1ヶ月半後に無事手術をすることができたとか。その後、抗がん剤を1年間続けたそうです。幸いにも副作用はそんなにひどくなかったか。

「肌や爪が黒ずんだり、まつげが抜けたりはしましたね。抗がん剤は、3週間飲んで1週間休みなんですが、さすがに3週間はしんどくて食欲も激減していました。あのとき、思ったんです。子供たちもう大学院で手を離れるし、あと5年生きられればいいかと、半ば覚悟を決めたんです。これからの人生は、自分のために好きなように、やりたいうことは我慢しないでなんでもトライしようって。わがままに生きようって」

その覚悟が、次から次へと習

い事を始めることになったわけです。抗がん剤治療の最後のクールが終わったときも、友人とドイツ旅行に行かれたとか。その後も年に1、2回は海外に出かけています。

## SODを勧めてくれたのは 医師であるご主人

そうして3ヶ月に1回の検診で異常なしと言われ、それが半年に1回、1年に1回になり、気づくとあの覚悟を決めた手術から5年の月日が過ぎていました。

医者には、念のため10年は診ましようと言われ、さらに年月が過ぎ、寛解です、よく頑張りましたねと言われたのが2017年春のことでした。

「その年の夏にシュナウザーの姫を迎えたくんです。先代のシュナは他の犬とは全く遊べないおとなしい子だったので、4代

目のこの子はおてんばで、いろんなわんこたちと取っ組み合いの遊びをしたり、飛んでいるバツタをキャッチして食べたり、とにかくワイルドなんですよ」

なんだかお元気になられた和恵さんの様子を見計らってやってきたかのような姫ちゃん。実はSODも姫ちゃんつながりで飲むようになったとか。

「姫を紹介してくれたお友達にSODを20年近く飲んでいる方で、同じくらいの歳なのにやらお元氣なんです。それで少し興味を持って聞いたら、SODのことを教えてくれて、私はこれまでサプリとかはあまり信じるほうじゃなかったの。その友人も、SODは勧めるのが難しいから、聞かれたときにしか勧めないといわれ、そういうのが逆に信じられるなと思ったんです。それで資料といっしょにSODも少し分けていただいで



お友達といっしょの姫ちゃん(左) 3歳からSODを飲み始めて4年。病気知らずで元気いっぱい

夫に相談したんです。そうしたら、成分も悪くないし、あなたの体調維持にはすごくいいものだと思う。続けてみたら、と勧めてくれたんです」

聞けば和恵さんのご主人、歩くのが嫌いなお年寄りから、先足が痛いからいい薬出して、といわれると、それは単に運動不足だから、毎日15分でもいいから歩きなさい。薬は痛みを取っ

てはくれるけど、歩けるようにはしてくれないんですよ、と親身になってアドバイスをしてくれるお医者さんなのです。時には薬の出し過ぎや同じような薬を数力所からもらっている患者さんの薬チェックもして、減らすように勧めているとか。

「私、1年前に白内障の手術をしたのですが、例の元気な友人も年齢のせいでスマホが少し見に

くいいと言ひ、白内障の手術を受けたと言ひ出したんです。それで私といっしょに病院に行ったら、白内障の兆候はほとんどなく、近くが普通に見えているなら、それ以上を望むのは贅沢ですといわれ、がっかりしてしまいました。私がすごく近くが見えるようになって、世界が明るくなったというものですから、余計に自分も遠くがよく見えて、近くもクリアーになると期待していたんです。その話を夫にしたら、彼女もSODをやめたら白内障になって手術できるかもしれないよ、というんです。つまり、SODを20年も愛飲してきたことが彼女の白内障を阻止していたわけですよ。70歳になれば7割が白内障になっているといえますからSOD恐るべしですよ」

しかし、SODが白内障に効果的だということを知っていたら

したご主人もご主人です。さすが医師といわざるを得ません。

「夫は、SODを飲み始めてから私の状態が安定しているのを感じてみたい。これまでは時々頭痛に悩まされ、機嫌が悪くなるが多かったのに、SODを飲み始めてから機嫌が悪いことがなくなったというんです。というのも、以前は、イライラしている私を見て、具合が悪いのか機嫌が悪いのか分からない、と言っていたんですから」

具合が悪いのが機嫌が悪いのかわからない、といってオロオロするご主人の心境が想像できて笑ってしまいますが、けだし名言です。

「SODを飲み始めて、気づくと確かに、と思えることがたくさんあります。まずは頭が痛い、ということがなくなり、何日も

寝込むような風邪をひかなくなったし、1日寝ればすぐに治っ

ているんです。コロナも乗り切り、やりたいことが思い切りできている。テニスに行けば体調が悪くて来られない人が必ずひとりはいるし、合唱でも最近は休みがちな人が増えてきているのに、私ひとり、皆勤でいるのはやはりSODのおかげかなと」

「いやいや、70歳でこの行動力と体力、恐れ入ります。おまけに広島で最近施設に入られた90代のお母様のため2ヶ月に一度は帰省しているのですから頭が下がります。」

「実は、最近、知ったことなのですが、私、原爆被爆2世の認定を受けたんです。父があの日、原爆の落ちたところから半径5キロ以内に行ったことが最近認められたのです。幸い父は被爆の症状は全くなく、昨年95歳で亡くなりましたが、私の甲状腺や大腸がんは、おそらく父の被爆と関係があったのかなと思います

す。今頃になって認定だなんて、それだけ立証などは難しいのでしょうね。ですから余計に気を付けなれと思つてSODを頼りにしています」

確かに、病気の因果関係の検証には長い年月が必要なのかも知れませんが、最近だと、コロナの関係の後遺症が少しずつ表面化してきているのも気になります。

「私、元気になったら、人から勧められることにはNOといわないようにする、と決めていたんです。だから習い事が増え、4代目の姫が来て、私も姫もSODを飲み始め、元気になって、気づいたらいいことばかり」  
SODがポジティブに生きる和恵さんの手助けになっているとしたらこんな嬉しいことはありません。



※1甲状腺機能亢進症

甲状腺機能亢進症とは、甲状腺のホルモン分泌機能が過剰に高まることで全身にさまざまな症状が引き起こされる病気のことで、甲状腺機能が高まる病気がバセドウ病や甲状腺の腫瘍、甲状腺炎など多岐にわたります。『甲状腺機能亢進症』は単独の病気ではなく、これらの病気の総称です。

甲状腺から分泌される甲状腺ホルモンは、体のさまざまな機能や新陳代謝を活性化する働きがあります。そのため、甲状腺

機能亢進症によって甲状腺ホルモンの分泌量が増加すると、心拍数の増加や血圧の上昇、発汗、ほてり、手の震えなど交感神経が過度に刺激された際に生じる症状が見られます。さらに、活動性の異常な高まりや、基礎代謝が異常に高まることによる体重減少、消化管のはたらきが過剰になることによる下痢などさまざまな症状が現れるようになります。

(メディカルノートHPより)



新型コロナウイルス  
後遺症の現状

## 未解明な症状と 最新の治療アプローチ

2020年に世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症は、初期症状の重さにかかわらず、多くの人々に後遺症を残しています。この後遺症は、感染から回復したあとも数カ月から一年以上続くことがあり、多くの患者さんが日常生活に大きな影響を受けています。

### 1. 後遺症の主な症状

東京都保健医療局が都民1万人アンケート調査で発表したデータによると、新型コロナウイルスの陽性判定の経験がある人のうち、感染してから2か月以上の期間、後遺症を疑う症状があったと回答した人の割合は、令和5年2月調査時点で25・8%、令和6年2月調査時点で23・4%となっ

ています。また、新型コロナウイルスに感染した人の約25%の人が12か月後にも何らかの後遺症に苦しんでいるという結果が出ています。その症状は、咳痰、倦怠感、呼吸困難、集中力低下、関節痛、味覚・嗅覚障害、抑うつ、しびれなどがあり、これらの症状が長期間続くケースが多いようです。

さらに、感染時に軽症だった人々にも後遺症が発生することが報告されていて、既往症や年齢に関係なく、若い世代でも発症するリスクがあります。東京都が実施した調査では、後遺症に苦しむ人々の約85%が日常生活に支障をきたし、仕事や学業に影響を与えると答えています。

### 2. 後遺症の原因と医師の見解

後遺症の原因はまだ完全には解明されていませんが、最近の研究では、ウイルスが身体の免疫系に長期的な影響を与え続ける可能性が指摘されています。例えば、免疫学者ティモシー・ヘンリッヒ教授は、

「新型コロナウイルス後遺症の一部が補体系(※1参照)と呼ばれる免疫システムの異常によるものです」と指摘しています。補体系の過剰活性化が、体内の持続的な炎症反応や細胞の損傷を引き起こし、これが長期的な症状の原因になっている可能性があるというのです。

また、後遺症の一部の症状に対しては、補体系の活性化を抑制する治療薬が効果を発揮するかもしれないという期待もあります。ただし、この治療法が全ての患者に有効であるかどうかは、今後の臨床試験次第だとい

います。

### 3. 治療とケアの現状

現在、新型コロナウイルス後遺症に対する治療法は限られていて、症状に応じた対症療法が中心となっています。例えば、息苦しさや倦怠感といった症状には、運動療法や酸素吸入、薬物療法などで軽減する場合がありますが、完全に症状を取り除く治療法は確立されていません。東京都では、新型コロナウイルスの後遺症に関する相談窓口を設置し、医療機関と連携しながら患者さんを支援していますが、適切な治療を受けるまでは長いと言われています。

2024年時点でも、後遺症に対する理解は進みつつありますが、まだ治療法は確立されていません。しかし、補体系の研究など新しいアプローチが進展しつつあり、治療法の確立に向けた動きが加速しています。今

後、臨床試験の結果次第では、後遺症患者に対する新たな治療法が提供される可能性がありません。

#### 4. 精神的・社会的影響

新型コロナウイルス後遺症は身体的な症状だけでなく、精神的なストレスや不安を引き起こすことも多いです。後遺症が長引くことで「症状が治るのか分からず、不安で鬱状態になる」といった声も多く、相談先が分からないまま不安を抱え続ける患者さんも少なくありません。

東京都の調査によると、後遺症によって生活の質が低下したと感じる人は多く、症状により仕事や学校を休むケースも報告されています。後遺症を抱える多くの人は、病院を探すのに苦労したり、適切な治療を受けられないという現実に向き合っているといえます。

新型コロナウイルス後遺症は非常に多

様な症状を伴い、患者さんごとに異なる経過をたどります。患者さんは適切な休息を取りつつ、医療機関と連携しながら自身の健康状態を管理していくことが重要だといえるのかもしれませんが。

#### ※1補体系とは

補体系とは、免疫系の一部であり、細菌やウイルスなどの病原体を体内から排除する役割を持つたんぱく質のグループです。人間の体の免疫反応をサポートし、感染と戦うために重要な役割を果たします。

補体系は約30種類のたんぱく質から成り、これらは血液中や組織の中に存在します。これらのたんぱく質が、病原体や異物を認識すると次々に反応して連鎖的に活性化され、最終的に以下の3つの主な効果をもたらします。

#### 1. 病原体の直接破壊：補体系の

一部は、細菌やウイルスの膜に穴を開けて、直接これらの病原体を破壊します。

#### 2. 食細胞による貪食を助ける：

補体系は、病原体の表面に「目印」をつけ、マクロファージや好中球などの食細胞がそれを見つけやすくし、病原体を取り込んで破壊する手助けをします。

#### 3. 炎症反応の引き起こし：補体系は、炎症を引き起こす物質を生成し、感染場所に白血球を呼び寄せることで免疫応答を強化します。

補体系は自然免疫(先天的な防御機構)の一部であり、常に体内でスタンバイして、病原体が侵入した際にすぐに対応できるようになっています。

簡単に言うと、補体系は「体内の警備員」で、侵入者を見つけて攻撃し、他の免疫細胞がスムーズに働くように助けるシステムです。

### SOD様作用食品体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都世田谷区玉川 1-15-2 B棟 2802

日本SOD研究会 宮城宛

Tel 03-5787-3498

までご一報下さい。

### 本紙の利用に関するお願い

日本SOD研究会報は、株式会社丹羽メディカル研究所のみ利用許諾をしております。当研究会の許可なく、文章、画像の一部および全てについて、販促物利用、転載、複製、複写、転用、編集、ブログへの引用などの二次利用を固く禁じます。丹羽メディカル研究所が許可した場合はこの限りではありません。

●SOD様作用食品とは●  
**丹羽博士の開発**

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力ぎを握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや生活習慣病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいため内服しても胃で破壊され、腸から吸収されません。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽朝負（耕三）医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に



二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精緻さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています。

先生は生前、土佐丹羽クリニックの院長として日々、医療の現場で、がん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたられていました。また、SODなどを始めとする論文は高い評価を得て、日本のみならず海外の学会で講演したり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送られました。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

## SOD研究会からのお知らせ

いつもSOD研究会報をご覧いただきありがとうございます。

最近、特に当研究会へお問い合わせいただくことが多い内容についてお知らせ致します。「丹羽耕三博士のSOD様食品は金の笠のシールが貼られていれば、どこも同じものなのではないでしょうか？」というような、ご質問をよくいただきます。

その回答としましては、金の笠（管理番号付）シールは丹羽免疫研究所で分析・検定し、エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で開発当初から、厳しい品質管理のもとに伝統的な製法で造られる製品だけに貼付される信頼の証（マーク）でした。しかし、ここ数年前より丹羽先生の考えで別の工場で製造されたSOD様食品にも金の笠のシールが貼られ、販売されているものもあります。土佐清水市の工場で製造されたか、そうでないかを見比べる一つの目安が、まず金の笠シールの特徴にあります。

### エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で製造されている製品シールの特徴



原寸大 横 30mm、縦 25mm

- 管理番号は6桁  
※土佐清水で製造された証明の通し番号となっています。
- シール左部分に絵や記号が記載されている  
※左部分の表示は製品管理の為、不定期に変わります。
- 他の工場で製造された製品と比べ、原末の味や色、粒の大きさが違う場合などがある

◆現在、丹羽療法の診察は皮膚科のみとなります。ご希望の方はご予約いたします。（※自由診療）  
※診療日等に関しましては、状況により変更、休診となることもあります。予めご了承ください。

丹羽メディカル研究所 ☎ 0120(731)175